ヘ 4
1101
1

利生門
蹟 1101
巻 1

宗教大学図書

宗蓮家集

春平

[illegible]

[illegible]

百[illegible]中に[illegible]

[illegible]

山家梅[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとうりの花を雑海まんくうむ暗へよ煙ニうり
聖へ[illegible]ひとりの[illegible]
さ記さう次花[illegible]
[illegible]
浅緑ニすこうわりたる花のこと白れ
大臣家ニ合ス花
[illegible]
花[illegible]
[illegible]

新拾遺

花の名をとりそへよ[illegible]
賀茂ニ合ス花をとり
[illegible]
[illegible]
[illegible]

雙

百首ニ中ニ更衣

花の名よ袖にそめ[illegible]
大納言ニ通家十そ云よ[illegible]

[illegible]

[illegible]

同じ[illegible]

[illegible]やわすれつゝ[illegible]

百そ年[illegible]月毎

[illegible]

夏[illegible]

月[illegible]

蘭梅

[illegible]

[illegible]

いつ[illegible]

[illegible]

文[illegible]

[illegible]

風雅

[illegible]

秋

秋の[illegible]

[illegible]

千載

尾上なる山田の秋わさの穂の色
ぬれぬれ葛葉うらをかへす風のうへに
こぼれ咲萩の露の玉ぬき
いつくまで世に住うらやむ秋の月のわすれぬ
時雨の雲とともにたつ
いねてよもすがらしら萩の下ゆく水の
音ばかりの秋の月かな
世にすむ雲井とちかき高砂の松に
九月十三夜よ深き月ゆゑ

天川空に雲ゐ月ぞ見ゆ
仁和寺法皇崩山里に住給ひ
ける　右二首異也

月のすむ人くのよそにうつるよ
次の海乃行よ月いとあはれ
百首中より秋月
秋雲八朱雲もうつ
月山田山ゆ
秋雲
行衣秋長
鳴やらあ秋の夜とあれ

秋哥の中より

[illegible]

[illegible]

大納言実国家哥合に九月盡のこころを

[illegible]

冬哥

百首哥中より

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

恋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

恋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みちさのうつくしきよみあるこゝろおもしろきに
横雲のかゝりたるあけぼのゝ月のい
と面白うりきれい
ちゝはゝのうしろへ遠ざかりたる夜の月を見て
不法花の源河原の乗へ〻ろに渡れば
て立やすらふる家ゆゑうつくしきこゝろ
ひかつくさうしりきれいとゝあり
みをこひ恋とゝえとそ石清水の立まつくも恋に
その文乃年の三月十四夜さゝよ海ゝて

、お家をうつくしう入道新蓮よりうりて
あひまちうるおそくもうるおそくもひるり
よりとやひよつうつくしうりきれい
ちゝはゝよりはなをいはゝよりなりきれいの歌を
ゝ
さゝよりとひよりはなをいはゝの月歌を高野とそ世にあり
同し紫紙ゝ
ちゝひとん同し北よりの浦海ゝひ入ゝ来さうとてい
ゝ

和尚の御事人々申合候と雖こいしらあるまとそこの
ひと業平朝臣河内国高安郡の郡
司かひらの仲つ自殺うろよう者
子高い所の人中務のそうらとかん
ようくいまよ行紙中の長八十日
あまりみもろもとにんまもりう
人のうとうもと
わたの見ひのこまろ河の心を長とそ長ふ
歌

いかに人の長恋思ひ高ひ高ひ紀い
いられの池をとろに高るの苔ひく鳴也
きへ侍るのことをとてとし孫きんを長
りかわとて
百つくよ雲を神のあるひいられの池野鳴多
磯上寺にまてくおうこまれいるやと
鶴ち度のうりるふとをひて
の侍をとてくまち
歌のうこ山ち姫をさて濃茅を東日花を多

小心の行ひを酒ひきつつくり
二条院の御墓とうんぐく
六十わきりに成しかのうちに成て一村を義世ろ
太太臣家に今日
もゝ夜は秋ぞうきの色ぞ見ぬ世ぞ成世ろ
百を雑に
新たに
あの御とれの紫こして御まを稀代為舟
日
教ぞうの身ぞうに物ぞ御ありて行さうるぞ世を悦
白雲も法の教ぞうるぞうの秋ぞうて文をくの行ぞ

法華経五百弟子授記の事
世尊弟子

薬草喩品

草木叢林　随分受潤
雨の雲人の子の木をわかねをひとしのつるとをる
如雨普潤

貧人見此珠　其心大歓喜
陵たに
衣をや衣の隙とひとしんかりとやをるある神
人記品

我為在家時　羅睺為長子
我今成仏道　受法為法王
[illegible]
法師品
加刀杖瓦石　念仏故應忍
[illegible]
挑婆品
龍女成仏
[illegible]

勸持品
何故憂色
我[illegible]安樂行品
[illegible]
壽量品
[illegible]
隨喜功德品
若分充令充

[illegible]

不信品

[illegible]

神力品

南無釈迦牟尼仏

[illegible]

囑累品

[illegible]

本事品

其見大塔

[illegible]

妙音品

世事可思議

[illegible]

普門品

若多聞意常念恭敬

[illegible]

妙荘厳王品

[illegible]

右一冊以　常德院殿御本文明年
中書写之本重書之者也
文亀三年六月下旬日

撰集不見家集并ゝ下私勘之

千載
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
和千所ゆて千つ[illegible]に
千とくもえろ
うくもや間の稼ぎより立田の行より紙白雲
ふ文百義千合り
[illegible]
数よろ新根の[illegible]れい行の紙乃文書
稼政大臣家百そ千合よ稼ぎの走
よくもろ

うく[illegible]
百そ千とうし内
稼ぎ神ちし寿やちひ[illegible]高ぎこれ物とは
稼政大臣大臣より稼ぎる時月の千ふ
十首ちもせ作り出る日
ひとり民[illegible]
[illegible]千[illegible]
[illegible]新を新よ文[illegible]の月
太神門内大臣家ゆて海道兼言之

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

遠仁元年三月廿合より遠江国意の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

引接結縁示

[illegible]

後京極摂政家百首

新物撰

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後京極摂政殿

月

[illegible]

夕立

線捨遺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新後撰

[illegible]

寺覺法歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

漢書

[illegible]

演技抜遺

[illegible]

日

[illegible]

[illegible]

風雅

[illegible]

後京極摂政六百首

[illegible]

新古今

[illegible]

遠仁元年後鳥羽院[illegible]

[illegible]

[illegible]

炭竈

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後京極摂政

[illegible]

新拾遺

[illegible]

家十九

後鳥羽院よみたまひける時

月

明かるる雲井のたなびくかぎりなきは秋風の

よめる事を合す

月

いとの風乃清涼殿よりひく後朝の狩衣の袖に

如寒者得火

月

岩の水嚴乃冷さもこの秋風の吹ぬ

新後拾遺

影しらす

小山田よりかりそめの仮のおろかやつくる月毎乃空

秋の所なれて元貞千はりうるに

月

山の乃ふもとのつゆもこの秋ぬ雲に消て

新続古今

よめる百首歌合す

影つゝ秋の侍ぬるかな

建仁元年撰千合よ河月似秋と

月

いつこしか

月清し秋いてそる山川の影よりなれ白ゝ

後京極摂政太政大臣家百合す

菊秋

月

菊て月秋の名殘と山のこゝ月とをやそ名の宮

[illegible]

[illegible]

入千載集以後於新續古今代々集之哥
数九百拾七首終

寂蓮法師　中務少輔俗名定長
後海法師子後獨子
建仁二年七月十九日早世

[illegible]

八千載集以後拾新後古今代々集之事
数九百拾六首歟

宗蓮法師　中務少輔信名定長
後海法師子　後鳥羽
建仁二年七月十九日卒世